

# 怒りの反撃へ 活動家となり一人ひとりが

## 速報 大会第2日

熱烈な討論を通じ、  
闘う方針と体制をうち固める(10/1)

動労千葉が7日定期大会2日目は、多くの傍聴者が結集する中、千葉グラウンドホテルにおいて8時30分より再開された。大会は真剣な全代議員の討論を通し、戦争と暗黒の道を狙う政府自民党の反動攻勢が「三里塚」と「国鉄」をめぐって激動的決戦に突入している今こそ、「80年代に通用する自前の労働運動」の旗のもと「一人ひとりが活動家となり反撃に決起すること」を満場一致で確認し、16時30分大成功のうちに終了した。

## 運動方針「予算等、満場一致確認」

撃の中心軸を最

オ2日目の議事は、「一九八二年度運動方針案」が吉岡粗松部長より提案された後、来賓の挨拶をうけた。県交運を代表して、本吉県交運議長・国労千葉地本副委員長から、「政府・自民党は人事院勧告凍結につづいて、仲裁々定凍結へ動き出した。厳しい状況ですが、同じ車への仲間として一体となつて闘いましょう」とのあいさつを受けた。

も有利な点で、うちくたび、政府・国鉄当局とゆれぬ労働者の力関係の大きな逆転をかちとっていく道である。この大会の成功と10/1三里塚総決起の勝利と10/1反合の勝利は一体だ。

「反合」「三里塚」「中江選挙等」で、熱心な討論

④ 右翼労働「統一」攻撃、合理化反対、中江選挙陣争勝利に向け、国労共闘の更なる強化、等について。

質疑討論は、9名の代議員から、各分野にわたる意見がだされ、執行部答弁もまじえ、終始活発に進められた。どの意見も、昨一年向を取場で、そして闘う広範な人民と共闘して真正面でもつめき勝ちぬいてきた自信に満ちたものであった。骨子は

⑤ 当面する重要課題としての三里塚二期着工阻止陣争とジェット燃料輸送阻止陣争について。

10/1三里塚総決起を突破  
10/1秋から春への総反撃へ、

討論の最後は、中野書記長の総括答弁を受けた。「敵が、『国鉄』と『三里塚』に的を絞って最後の勝負に出たことは、一方では我々の絶好のチャンスでもある。闘う人民の側も最強の部隊を先頭に、広範な人民の隊列を率いて、今秋から来春へ、思ひきりの大反撃をくゆせるときにきた。10/1を突破口に、反撃戦に突入しよう」と提起し、全員の手で確認。大会は、「方針案」「予算案」「決議案」を満場一致で確認し、船橋市議選に立つ中江顧問の断固たる決意表明を圧倒的拍手で確認し、「大会宣言」「総会歌」がハローで終了。